

2015年
7月3日
金曜日

野村 宗訓 教授（産業経済学）

健全なグローバル社会 を築くために

① グローバル化に伴う社会の変化

「グローバル化」をどのように定義するかは、意外に難しいと思います。特に、「国際化」との差異を明確に説明するのは容易ではありません。文科省はスーパーグローバル大学を指定して、入試制度も含めた教育の再検討を促しています。

もともと教育に国境はないと考えられています。地理的に島国のわが国では科目や内容に多様性が欠けていたのかもしれませんが、本学では交換留学などの国際交流活動は積極的に展開されてきましたが、将来、世界で活躍できる人材を多数、育成していくことが求められています。

② 訪日外国人増加と相互理解の心

最近のニュースではT P P 推進やインフラ輸出の話題に加え、L C C の普及によるインバウンドの急増も注目されています。大都市圏では、

訪日客を受け入れるホテルの部屋が不足するほどです。日常生活においても、主要駅や百貨店で外国人客が増えていることを目の当たりにしていると思います。

2020年のオリンピック開催に向けて、スタジアムなどの建設計画が進んでいますが、費用負担が大きくな障壁となっています。ハコモノ施設も大事ですが、食生活や宗教などについて相互に理解しようとする姿勢も大切なのではないでしょうか。

③ グローバル化の弊害や逆行現象

グローバル化は必ずしもメリットをもたらすだけではなく、倫理観や価値観の違いから国家間の対立を招く場合もあります。植民地支配や領地拡大の背景には、資源獲得をめぐる争いもありました。一方的な海外展開や暴力的なテロ行為は、悲しさや虚しさを増幅するだけです。

過去の過ちを繰り返さないための方策が熟慮されるべきことは言うまでもありません。現在でも外交レベルの摩擦が市民生活を脅かしていますが、健全なグローバル社会を築くためには、対話に基づく解決策を見出す必要があります。

④ 「包摂」に基づく国際秩序の形成

経済活動が国際分業で成り立っていることは周知の通りです。EUやアセアンにおいては、加盟国が広域経済圏の形成に多大な貢献をしてきました。貿易の拠点として港湾や空港が世界に向けてオープンになっていなければ、閉鎖社会のまま終わってしまうこととなります。

スポーツや音楽・芸術活動に関しても、国際レベルでの活躍が認められているからこそ、視聴者やファン層の支持があると考えられます。国際秩序を維持するためには、他者を

包摂する施策が重要であることは誰もが認めることです。

⑤ フロンティア拡大とルール整備

近年、地球温暖化によって北極海の氷が解けているために、新たな航路と海洋資源をめぐる権利が国際問題となっています。また、無人飛行機「ドローン」や航空機と宇宙船の中間的な乗り物「スペースプレーン」が、商業化される方向で実験段階にあります。これらは軍事上の技術と密接に関係しています。

地球を取り巻くフロンティアが海と空で拡がっている一方で、国際ルールの整備は遅れています。今後、技術開発のみならず制度設計の協力も不可欠です。本学は海外の大学院へ留学し、地球規模で学ぶことを奨励しています。ぜひグローバル人材として、そのような機会に挑戦してほしいと願っています。